

来年度予報課に APT がいても地方での利用について同様な問題が起るので、本庁として観測部にデータベースを考えてもらうよう今度の調査課長会議に出したいと思っている。

宮沢：米軍の放送も大変役立っているが電波状態が悪いので放送の強化はできないか。

今井：米軍の放送強化より気象庁で放送したらよいと思うが。

土屋：予報部では機械が付けばすぐ始まると思う。今はまだ鮮明度に問題があるようだ。

今井：APT もよいが、少し詳しく解析しようとする

ると AVCS 等むこうから資料をもらわなければならないが、それにはどうすればよいか。

土屋：本庁に APT 準備委員会をつくった時、その問題は図書課でやってもらったらということで、図書課でフィルム・ライブラリー・セクションをつくって放射の資料などを一括管理していただければ一番よいと思う。

今井：色々要望が出たが、どのように処理したらよいか、学会の単なる意見で何処にも反映しなければ何もならないと思う。我々が機会あるごとに本庁に対してこれらを要望することにした。

## 理事会だより

### 第6回(14期)常任理事会議事録

日時：12月6日 15時30分～19時

場所：気象庁参事官室

出席者：畠山、北岡、神山、朝倉、三宅、桜庭、根本、吉野、岸保、須田(滝)、大田

#### 議決

1. 会員死亡の場合の追悼記事について  
標記の取扱について、天気担当理事より提案あり次のとおり決った。
  - (1) 研究業績の著しかった者については、理事会で審議の上、写真と追悼記事を天気掲載する。
  - (2) これに準ずる場合は、編集委員で判断し、適当な人に依頼して、原稿が得られたら掲載する。スペースは余り大きくとれない。
  - (3) その他の場合は、確認できる範囲で会員死亡通知として掲載する。
2. ICSU から寄附金の申入れについて  
さきに ICSU から学術会議に経費不足のため援助を求めて来た。学術会議では、正式に決定された会費増額でないで支出困難とのことで、各学会から寄附金を集める方向で照会した。当学会にも地物研連の方から口頭で意向打診があったものである。次のとおり決った。
  - (1) 他の学会でも応ずる場合は理事長の判断で1万円位出す。
  - (2) この場合も正式な文書を提出してもらうこと。
3. 気象学会の運営について
  - (1) 最近1年間における常任理事会の活動のうち、委員委しよくの決定は全国理事会でなすべきであったが、その他についてはとくに問題はない。今後は全国理事会をできるだけ活用する。
  - (2) 気象集誌、天氣の経費について  
A会員と、B会員とに負担に差があり、B会員はさらに500円ぐらい(年額)の負担増が必要になる。さらに賛助会員の増加(例えば気象協会)、団体会員の会費値上げが必要であろう。

- (3) 編集して発送事務まで外部に任すのに、どれだけの費用が必要かしらべる(根本理事担当)。
- (4) 来年1月には改善すべき事を具体的にきめる。そのために必要な原案を作業委員会を設けて作成する。作業委員会の委員は北岡、桜庭、根本、須田、朝倉、各理事とする。